

◆「アレルギーの臨床」に寄せる◆

「アレルギーの臨床に寄せる」－80号－
【矢追インパクト療法】
重篤な蜂窩織炎を治した2例

東京渋谷 山脇診療所
山脇 昂

30歳前半の女性、1人アパート暮らしで野良猫を抱っこした瞬間ネコの爪が数個右ホッペに食い込んで、ネコが一瞬ホッペにぶら下がったような状態になった。その1日後発熱し、右顔面から首にかけて腫脹し、首は動かさず顔と唇と頬部が腫脹し目がぱちくりできず、唇も満足に動かさず良く話せない。右顔面から首にかけての広範な発赤腫脹が見られ、生命にかかわる重篤な蜂窩織炎です。これに対して矢追インパクト療法をやったら直ぐ首が少し動くようになり、顔面の腫脹もとれてきて、精神的にも楽になったらしく、うっすら笑みを浮かべられるようになり、次の日爪の刺さった傷痕から膿が出てきた。2日後には腫れも引き、熱も下がった。矢追インパクト療法による治癒経過はこれぐらい早い。患者さんは何が起きたか分からないぐらい早いのです。

もう1例、70歳前半の女性が近くの大病院整形外科で変形性膝関節症のため両側に人工関節を植え込んだ。左側は手術経過順調に行った。右側は化膿し、膝下全部腫れあがり蜂窩織炎となった。大病院を受診後当医院に来るのですが、大病院ではすることがなく、パンスポリンを投与するだけです。1年以上そんな状態を続けていましたが、大病院ではとうとう右下腿を切断すると言い出し、相変わらずパンスポリンを投与していた。私はこのどす黒く腫脹した右下腿に矢追インパクト療法を繰り返し繰り返しやりました。少しずつ腫脹は軽減して行き、半年ぐらいで全く治りました。人工関節という異物が入っているので治療に難渋し、全部で2年ぐらいの経過となりました。

矢追インパクト療法は矢追博美先生が、もう人間にそのまま打てる数種抗原 (antigen) を50%希釈液 (鳥居) を使用し超微希釈し、現行の減感作療法を更に安全・安心・エコに改良した簡単な皮内注射です。子供のアトピー性皮膚炎・アレルギー性鼻炎・喘息等を主とする治療法ですが、このような重篤な蜂窩織炎にも利用できます。0.001～0.05 cc

を皮内注射しクワデルを作ります。すると沁みて行くような痛みが皮膚上を広がって行きます。これが神経軸索反射です。この沁みて行くような痛みが抗酸化作用をします。体の老化 (錆) や炎症を元に戻す作用、若返り作用なのです。数個～数十個クワデルを作ると沁みて広がって行くのが合算合成され、そのエネルギーで体は温かくなり、気分が良くなります。アトピー等皮膚病を治します。よく免疫上「内なる外」という言葉を使用します。気管支から肺胞の奥まで「内なる外」であり、口から肛門迄の消化管も「内なる外」なのです。腸の蠕動運動も高めます。外胚葉・中胚葉・内胚葉といっても「内なる外」なのです。脳神経も「内なる外」です。矢追インパクト療法はこうして全身に広がって行き、悪い所を元に戻してゆきます。

矢追インパクト療法をやった直後、患者さんは沁みて痛いのですが、しばしば〈気分が良くなった〉〈目がはっきりした。明るくなった〉と申します。沁みる痛さに気を取られ、気分が良くなる変化に気が付かない人もいます。エネルギーを消費し蠕動運動を高めますから、空腹感が湧いてきて食欲が出ます。其の夜は疲れて、熟睡ではなく爆睡したという人も居ます。この「気分が良くなる」「熟睡ではなく爆睡した」と言う事を利用すると「うつ病」「不眠症」「睡眠時無呼吸症候群」にも効果有るのです。数名うつ病の治療をしました。うつ状態の人には特に良く効きます。患者さん自身が、腰が痛く腰にやっけていても、起き上がると、〈これ、うつに効きますよね〉と念を押されることがあります。「体が温かくなる」「エネルギーを産生消費する」と言うのを利用すると糖尿病の運動療法となり、運動など全く不可能な寝たきりの人にも有効です。リハビリテーションになります。インスリンは体を温かくしてくれません。時にはインスリンより有効です。3か月ぐらい遣っていると皮膚はきめ細かくなり、体調が良くなり、筋肉中の脂肪酸を燃焼させますから、血液中、中性脂肪が減り、HbA1cが減少します。糖尿病の予防にもなります。メタボリックシンドロームの人々にも最適です。矢追インパクト療法は自然治癒力、自己修復機能、恒常性維持機能を発揮させる最適な手段なのです。このことが何にでも効くと批判される所以です。アデポネクチン、AMP活性化プロテインキナーゼ (AMPK)、糖鎖との関係も調べてみたいのです。多分それらの増強もしていると思います。